

# 産婦人科医のための鉗子シミュレーション講習

開催日 : 2018年6月23日(土) 13:30-16:00(予定)

会場 : 虎ノ門ヒルズフォーラム4階(ホールB)

料金 : 無料(学会参加費は除く。当講習へのお申込みは、第43回日本外科系連合学会への参加が条件となります。学会参加費は当日会場にてお支払い下さい。)

講習責任者 : 竹田 省(順天堂大学産婦人科学講座 特任教授)

対象 : 産婦人科医 先着32名

事務局 : 第43回日本外科系連合学会事務局  
MAコンベンションコンサルティング

テキスト : 児頭下降度の評価と鉗子遂娩術 (メジカルビュー社)

ビデオ : Hypertension Research in Pregnancy (J-Stage) 予定  
[https://www.istage.jst.go.jp/browse/jsshp/advpub/0/\\_contents](https://www.istage.jst.go.jp/browse/jsshp/advpub/0/_contents)

申込み方法 : 当HP内、「鉗子シミュレーション講座」参加登録ページよりお申込み下さい。  
★4月3日(火)正午より、受付開始となります。

## 背景

鉗子・吸引分娩は分娩全体の5～15%を占め、分娩第2期の母児の危機回避を目的に行なわれている。現在、吸引分娩が主流となっている一方で、吸引分娩の裁判事例は後を絶たず、産科医療補償制度原因分析委員会の報告でも鉗子遂娩術より吸引分娩による事例のほうが圧倒的に多い。考えられる理由として、児の状態が悪いにもかかわらず、吸引牽引を何回も行い、娩出に時間がかかり、さらに状態悪化をきたすこと、牽引力が弱いためクリステル胎児圧出法を何回か併用するためさらに児の状態を悪化させる、などがある。

無痛分娩の普及により、機械分娩の頻度が上昇しており、吸引より牽引力のつよい鉗子技術が見直されてきている。英国やスコットランドでは鉗子分娩の方が、吸引分娩より多く、産科医の鉗子技術トレーニングは重要視されている(図)。

## 講習内容

### 1) 東大式ネーゲル鉗子の手技

(Utokyo Naegele Forceps)

\* 今回Kielland鉗子手技については  
行いませんが、ご質問はお受けいたします。

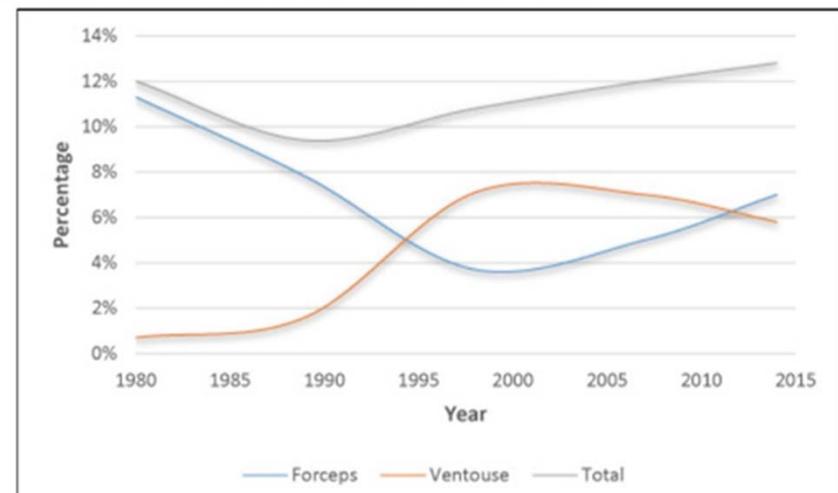
### 2) 内診・鉗子手技に関する質疑応答

鉗子の種類: Naegele鉗子

Kielland鉗子

Instrumental delivery rates in England

Instrumental delivery rates in the UK have remained stable at 10–13%.



Data from NHS Maternity Statistics